川越市立博物館

博物館だより

第36号

「改正入間県区画輿地図」

明治維新の変革は、地方の統治制度を大きく変えるものでした。とりわけ明治２年（1869）６月の版籍奉還と明治４年７月の廃藩置県は、その後日本が近代中央集権国家に進むための第一歩となりました。廃藩置県後、270年近く続いた川越藩は廃止され、新たに川越県が設置されました。しかし川越県は４か月後には早くも廃され、幾つかの県を統合して入間県が置かれました。

この「改正入間県区画輿地図」は明治５年の入間県管内図で、県下を大きく11の大区に分け、各区をそれぞれ７ないし10の小区に分けています。入間県全域では11大区94小区の編成となっています。入間県域は、現埼玉県西部の入間・高麗・比企・横見・秩父などの13郡に及び、人口41万952人、戸数８万1853軒、村数1019、石高は40万7213石余でした。

入間県では明治５年３月に旧川越城本丸御殿に県庁を開設し、ようやく事務体制が整いました。明治５年の入間県職員録によると、長官は東京府士族の沢簡徳で、組織は庶務課・租税課・聴訟課・出納課の４課と捕亡方・使丁・給仕・戸籍掛・土木掛・郵便掛・勧農掛が別置され、東京・深谷・秩父大宮に支庁が置かれました。

その後入間県は、明治６年に群馬県と合併して熊谷県となりましたが、明治９年には熊谷県管内の武蔵国13郡（旧入間県の地）は埼玉県に合併することになりました。ここに現在の埼玉県域がほぼ確定したことになります。

出　前　授　業
—その実践と雑感—

4月から総合的な学習の時間が本格的にスタートした。このような中、市内寺尾小学校の総合的な学習の時間（てらおドリームタイム）へ出前授業を行う機会があった。この時の様子を事前打ち合わせの模様からを含めて、雑感を交え記してみたい。

●第1回事前打ち合わせ　（平成14年5月9日）　寺尾小学校4年生担任山田・谷口先生来館。

今回の趣旨説明を受ける。それによると、4年生の総合的な学習の時間で、テーマは「クリーンてらお、かんきょう調査隊」であるという。目標は、以下の通りである。

《意欲・関心・態度》●地域の自然環境に関心を持ち、進んで自然とかかわることができる。
《学び方・考え方》●自分の課題解決の計画を立て、調べ、自分なりの考えを持つことができる。
●新河岸川を通して、自分の地域の環境問題に触れ、地域の実態に気付くことができる。
《生き方》●環境を守るために自分たちができる活動を実践することができる。

そして、博物館への依頼内容は、‘共通体験2「新河岸川の昔から今」・新河岸川の歴史について、博物館の人に聞いてみる’という学習に協力してほしいということだった。3年生の総合的な学習の時間では、地区探検を通し、自分たちの見つけたお宝を決めてきた。新河岸川はそのお宝の一つである。お宝に決まった理由としては「生き物がいる」（自然が残っている）「川がある地域はあまりない」などである。しかし、お宝に決めた割には、新河岸川についてよく知らない子が多い。事前アンケートからは、「魚がいる川」「ゴミがある川」など、現状での新河岸川しか捉えていない。このような児童の実態から、今回の学習は、お宝である新河岸川について川の歴史的な背景を簡単に押さえ、昔から寺尾の人々の暮らしに川は深い繋がりがあったことを気付かせる、というものであった。

以上を聞いた上で、博物館側からの下記の要望を伝えると同時に、内容の不明な点について確認を行った。

①ティームティーチング（複数の授業者による授業。以下T．T．と略す）による授業実施。
②本時（出前授業本番）の展開（授業プログラム的なもの）について、その実施計画書の提出。

●第2回事前打ち合わせ　（平成14年5月13日）　山田先生来館。

1回目の事前打ち合わせで確認しあったことに基づき、その調整・再確認を行った。中心となったのは、博物館側からの要望についてであった。また、出題するクイズの内容についての調整と博物館で用意する資料等の確認をした。

授業の様子

学　習　活　動	教師の発問や児童の予想される反応	備　　考
…… 休憩（11：00～05） ……		
5　昔の様子の話を聞こう。（11：05～） 	●殿様から昔の様子を伝えてもらおう。 ※教師2人に担がれ、駕籠に乗って登場。 ※大澤さんを「殿様」として紹介する。 ●クイズの項目に合わせて答えを言いながら解説して頂く。	●大澤さんの登場 ●駕籠
	〈船について〉 目的、種類、運んだもの、生活との関わりなど	●船の写真 ●船の模型
	〈川について〉 ●昔の川の様子 （九十九曲がり、水が多い、ゆるやか） ●貴重な川 （生き物、資源や人輸送手段、仕事場所） ●寺尾河岸 （東照宮再建資材の輸送）	●資料 ●資料 ふなまくら とっくりなど
	〈変わってきた川について〉 ●生活の変化から ●まっすぐになった川 ●生き物や虫が減ってしまった川 ●洪水対策をしてきた川	●写真

6 わかってきたことについてまとめよう。 (11：50)	●学習シートにまとめさせる。 ※目で見たこと、聞いたことなどについて、わかったことやさらにふしぎだなぁとか疑問に思ったことなどについて記号別にまとめさせる。	
7 まとめながらうかんできた疑問について、殿様にきこう。(11：55)	●子どもたちからの素朴な疑問について答えて頂く。	
8 お礼の言葉を言って、殿様をおくる。 (12：00)	●子どもたちの中から、感想とお礼の言葉を言わせる。	
9 殿様の言葉を聞こう。 (12：01)	●最後に子どもたちに伝えたいことなどを言って頂く。	
10 教師の話を聞く。 (12：05)	●今日の活動を振り返らせながら、まとめる。	

《雑感1》十分な事前打ち合わせの必要性

今回のように学校側から出前授業を依頼してきた場合、丸投げ型なのか協議型なのか十分に確認し、博物館側からの主張すべきことは主張し、対等な形で進めるのが効果的である。過去の経験に、出前授業のテーマだけ与えられ、後は適当にやってもらえればいい、ということがあった。これだと引き受ける側としても気分的に盛り上がりに欠けるし、どの程度の内容で話していいかわからず、学芸員のひとりよがりに陥ってしまいがちである。

これは、学校側だけの問題ではなく、学芸員の側にも問題がある。つまり、学校のことはよくわからないからとりあえず受けて適当に済ませてしまえばいいだろう、という姿勢である。今後、出前授業のようなケースはさらに増えてくるだろうから、双方が相手方の事情について明るくなる必要がある。

※打ち合わせ時の留意点

- ●学校側の出前授業に対する考え方が、丸投げ型なのか協議型なのか。
- ●何を児童・生徒に学習させたいのか。
- ●利用したい資料は何か。
- ●体験したい道具などはどうか。
- ●必要性や学習効果を考え、T．T．の授業が可能かどうか。可能な場合、教師が受け持つ部分と学芸員が受け持つ部分を細部まで打ち合わせる。
- ●再確認、再調整のことを考え、打ち合わせは最低2回行うスタンスで臨む。

《雑感2》十分な授業展開の考察

学習効果を考え、出来るだけ学芸員の一方通行的な講義形式は避けるべきである。これだと子供はすぐに飽きてしまい、興味・関心を引き出すことは不可能となる。一般に大多数の学芸員が、子供に対して話をすることの経験不足から、普段大人に対して話すスタイルのまま臨んでしまい、語句の難しさ・表現の難しさのため理解不能という結果に陥ってしまう。易しく話をするのは案外難しく、場数とそれなりの訓練が必要と思われる。仮に学芸員の話術が非常に長けていたとしても、子供は聞いているだけというのが苦手である。反応はシビアに現れる。よって、今回は、一度に話す時間が長くならないようクイズ形式の授業スタイルを採用した。さらに、授業は変化に富んで興味・関心を引き出すための趣向を凝らす必要がある。そのためには、出来るだけビジュアルに訴える方法が得策のようだ。このことに関しては、資料を収蔵しているという博物館の特長を最大限に活用すべきである。関係のある資料（写真やビデオなどを含む）をタイムリーに使うのが効果的だろう。今回は特に船の模型・写真パネル・舟唄のビデオを使った。さらに、船のスケールを理解させるためにロープを使い、そのスケールを実感させたりもした。また、子供の学年等を考え、どのような観点から話を切り出せば興味を持つか考えることも必要であろう。

また、今までの経験から授業はT．T．で臨むのが非常に効果的であることを学んだ。教師は子供への接し方・話し方のプロである。これは、学芸員のなかなか及ばないところだ。それぞれの力が十分に発揮できるための役割分担について確実に打ち合わせて、学芸員の知識や技能を教師が引き出す設定での進め方が効果的といえる。逆に学芸員は、授業内容と自分の持つ力との関係をよく確認し、少しでも学習効果が上がるように努力する必要がある。

さらに、今回の授業では新河岸川の歴史学習が主目的ではなく、子供達がこの川に興味・関心を高めるための導入として、歴史的な背景を簡単に押さえることがねらいであった。このことを理解し、もっと知りたいという子供達の欲求を、

ちょっとだけくすぐるようにしたのである。子供達はその後、自分にとっての興味・関心に従い調べ学習を行う予定があるので、学芸員は知識の全てを教えてあげる必要はない。どういうことが望まれているのか、そして何が必要なのかを見極めることが大事で、的外れな内容にならないようにしたい。

《雑感３》演出の必要性

子供達は、授業に来てくれる人がどんな人なのか、非常に関心を持って待っている。このことから、第一印象に強いインパクトを与えると、その後の授業の流れ上効果的なようだ。まず、学芸員そのものに興味・関心を惹きつけるといいだろう。場合によっては、コスチュームプレーではないが、学芸員自身が身を以てビジュアルに訴えることができれば最高だろう。そこまでは無理としても、「博物館から来た○○です」という登場だけは避けたい。

今回は、学校側との話し合いの上で、'歴史博士'として登場することを計画していたが、授業当日になって、昔のことなら何でも知っている川越城から来た'殿様'という設定に切り換え、先生二人が担ぐ駕籠に乗って登場した。これは、子供達に強烈なインパクトを与えたようだ。その後の授業の中では、先生も生徒も'殿様'に伺いをたててから説明を聞くという形をとった。私自身初めての経験だったが、次回もこれならいけるという感触をつかんだ。小学校低・中学年には是非お勧めしたい方法だ。

《雑感４》フォローの必要性

授業当日だけの対応では出前授業を全うしたとはいえない。子供達にとっての総合的な学習の時間は、一つのテーマに多くの時間があてられているので、その後も続くわけである。時にはその過程で調べ学習に博物館へ訪ねてくることもあるだろう。また、メールやファクスを使って質問をしてくるかもしれない。よって、十分対応できる体制を整えておくことは必要で、これらを果たして初めて、出前授業の一つを成し遂げたといえる。授業中質問の嵐を浴び、その全てに答えきれないこともあるだろう。そのような場合、事後にあのときの'歴史博士'或いは'殿様'からメールが届いたという演出を図るのも、学習上有効な方法ではないだろうか。

また、教師による本時前後のフォローも必要である。限られた時間（今回は約１時間）で、学芸員が子供達に理解をさせるには自ずと限界がある。そこで、授業にスムーズに入れるような事前のフォロー、及び、より理解を深めてもらうための事後のフォローを確認し合っておくと効果的だろう。

《雑感５》出前授業実践の勧め

学芸員の職にある者は、その仕事上身につけた知識や技能を、博物館と学校を繋ぐ部分に活かすべきだろう。これは、児童・生徒の博物館に対する興味・関心を高める上でも効果的であろう。潜在的な博物館利用の芽を伸長させる上でも有効と考えられる。私自身、出前授業の経験は数回しかないが、子供達に対してより効果的な授業の展開を考えることは、通常学芸員が行う業務である展示設計や講座のプログラミングの上でも十分に役立つと思われる。効果的な見せ方・理解のさせ方という点で基本的に通じているし、自分自身の訓練という意味でも、積極的に取り組むべき課題かもしれない。出前授業を通し、子供の新鮮で鋭い感性に触れることは、日頃の仕事に新しい空気を注ぎ込んでくれると同時に、すばらしいヒントを与えてくれる機会になるだろう。

この授業における子供達の感想が寄せられていますので、いくつかを紹介したいと思います

○むかしはプールがなかったから川であそんでいたなんて、はじめてききました。300年も前からふねがいききしていたなんてすごいなぁと思いました。〔K．M〕

○昔は、川の水ものめるくらいで、お米をきれいにするときだってつかっていたくらいなのに、その川に、ごみをすてる人なんてへんだなーと思いました。でも昔のじだいのほうが、いまの川よりずーといいと思いました。〔D．K〕

○川に船が通っているとは知らなかったです。ビデオのおばあちゃんの歌（舟唄）を聞いて、すてきだなと思いました。わたしもせんどうさんの生の声をききたくなりました。川がどうしてきたなくなってしまったのか、ようやくわかりました。川はどこらへんまでつづいているのだろう。〔M．U〕

○たかせ船は20ｍもあるなんてびっくりしました。昔の新河岸川は飛び込めるほどきれいだったと聞いたので、どのくらいきれいなのか、しらべたいです。昔の新河岸川の色は何色なのかなと思った。たかせ船には何人乗れるかしりたいです。虫はいたのかなと思った。〔R．M〕

《雑感　最後に》寺尾小４年生のみなさんへ

皆さんの住んでいる寺尾の地は、皆さんにとってのお宝である新河岸川との関係が非常に深い所です。そして、その新河岸川ではかつて舟運が行われていたという歴史もあります。ずっと昔からこの川は皆に大事にされ、愛されてきました。しかし、だんだん粗末にされ、歴史も忘れ去られてしまっています。また、最近大規模な河川改修が始められたことで、一層、昔のことがわからなくなっていくでしょう。どうか、皆さんは川を大事にする心を持って、歴史を多くの人々に伝えられる人間になって下さい。話を聞いた人は興味・関心を持ち、その人も大事にする心を持つでしょう。かつてのように、ゴミが無く生き物のたくさん住む川にしましょう。隣の新河岸では、地元の方々が川に対するいろいろな取り組みを行っています。寺尾でも皆さんが中心になって何か取り組みを始められたら、これほどすばらしいことはないでしょう。

出前授業を終え、こんな思いを抱きつつ…　（教育普及係　大澤　健）

同好会の御紹介

【博物館事業に協力してくださっている同好会の皆さんの、普段の活動を御紹介します】

― 川越古文書同好会 ―

川越古文書同好会は、講師の御指導をいただきながら、主に近世文書の解読筆写を学習しております。

当同好会の本旨は生涯学習であり、地域の文化向上に寄与することにあります。そして、資料中の当時の人々の暮らしや歴史的な背景について考え、それを後世に伝えていきたいと願っております。

このほかに、川越市立博物館の各種行事に協力しています。

例えば、博物館主催による「初めての古文書　入門編」では、出席者の解読演習のお手伝いをしています。また、博物館文化祭開催時にも、ボランティアで協力させていただいております。その際は、来館された各人所蔵の古文書について、解読や簡単な内容説明等を行います。

以上のような活動を行っている会ですが、難題があります。それは、資料不足という点です。古文書は何処の御家庭にもあるという書類ではございません。しかしながら、もし皆様方のなかで、古い書き物をお持ちの方がいらっしゃいましたら、古文書同好会（℡049-235-2236）まで御連絡いただきたくお願い申し上げます。

なお、古文書の勉強を希望されている方は、博物館の古文書講座を受講され、次に古文書同好会へ加入されることをお勧めいたします。

御加入お待ちしております。

（川越古文書同好会会長　粕谷　真吉）

※　川越市立博物館主催の古文書講座は、次回中級者向けに11月開催の予定です。

― 川越唐桟手織りの会 ―

江戸時代の末から栄え、「川唐」と呼ばれた川越唐桟を手本として、私達の『川越唐桟手織りの会』は活動しております。（※川越唐桟――　極細の木綿糸を２本引き揃えて平織りの縞柄にする織物）

会員数は約30名、週１回の自主学習会と月１回の例会で、手織りと染色について互いに先生となり生徒となって、技術向上を目指し勉強しています。

楽しみは、織り上がった着尺を着物・洋服・エプロンや小物にいたるまで、何にでも変身させてみたり、他の織物産地を訪ねたりすることです。昨年は新潟県十日町と塩沢へ見学旅行に出かけました。

藍や茜・桑などの草木で染めをし、織り上げるまでには長い時間がかかる手仕事ですが、柔かな風合いとキリリとした縞の良さがあります。

「川唐」が人気を博した時代の“粋”にできるだけ近づくよう技術を伝承しつつ、その素晴らしさを広く知っていただけるようこれからも活動していきたいと思います。

どうぞ博物館内の体験学習室をのぞいてみて下さい。

平成13年度　利用状況　博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館

博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館とも、平成13年度中、多くの皆様に御来館いただきました。誠にありがとうございます。今後も皆様のおいでをお待ちしております。

県民の日・市民の日の、平成14年11月14日㈭、12月1日㈯は、どなたも無料で御入館いただけます。12月1日には、「博物館文化祭」・「ミュージアムコンサート」も開催いたします。ぜひ御来館下さい。

施設区分		年間入館者数	1日平均入館者数	開館日数
博物館		（人）	（人）	（日）
	大人	85,028	434	285
	学生	22,690		
	児童	16,098		
川越城本丸御殿	大人	87,383	397	297
	学生	22,259		
	児童	8,155		
川越市蔵造り資料館	大人	86,725	396	297
	学生	22,548		
	児童	8,279		

「ふるさとのまつり」コーナー

今福の祭りばやし

— 埼玉県指定無形民俗文化財 —

平成14年７月30日～10月24日の展示

今福の祭りばやしは、江戸の囃子（はやし）の流れをくむ新囃子です。芝金杉流（しばかなすぎりゅう）と称し、川越に多く伝わっている芝金杉流の囃子の本家にあたります。

毎年、元朝祭（がんちょうさい）（元旦・菅原神社）、春祈禱（4月15日・菅原神社）、天王さま（7月中旬・平野神社）、秋の祭礼（10月15日・菅原神社）に奉納され、中でも7月の天王さまでは、囃子連が屋台に乗り込み地区廻りの神輿に随行しています。また、10月の川越まつりには、六軒町（三番叟（さんばそう））の山車の囃子方を担当しています。六軒町の山車に乗るようになった経緯は、山車建造当時（明治21年）、囃子採用の競争試験で見事一等になったことに始まると伝えられています。

この囃子は、「寝て聞け」ともいわれ、比較的テンポがゆっくりとしてバチ数も少ないという特徴があります。囃子方は大太鼓１、小太鼓２、鉦１、笛１に舞が付きます。「屋台」・「宮昇殿（みやしょうでん）」・「鎌倉」を始めとする十種程度の演奏曲目を持ち、特に、「師調舞（しちょうめ）」は最も得意とするところで、川越まつりにおける山車の曳っかわせでは必ずこの曲を演奏します。また、「トッパトウガク」と呼ばれる珍しい曲目（三番叟を舞う）もあります。

地元囃子連では、囃子の技術の研さんとともに、後継者育成にも力を注いでいます。

中世の展示

重要文化財

銅　鐘　（文応元年）　複製

鎌倉時代

原資料：川越市元町　養寿院蔵

【銘文】

武蔵国河肥庄
新日吉山王宮
奉鋳椎鐘一口長三尺五寸
大檀那平朝臣経重
大勧進阿闍梨円慶
文応元年大歳庚申十一月廿二日
鋳師丹治久友
大江真重

文応元年（1260）の銘を持つこの銅鐘は、かつてこの地方に河肥庄という荘園が存在したこと、この荘園を本拠とした平経重が鋳師丹治久友らに鐘の鋳造を依頼して荘園内の新日吉山王宮に奉納したことなどを知らせてくれる貴重な金石文資料です。

銘文中の大檀那平朝臣経重は、平安末から河越荘を本拠として活躍した河越氏の嫡流で、文永９年（1272）に高野山の参道に町石（111町石）を寄進した人物です。この町石の銘文で遠江権守を名乗っていることから幕府の有力御家人であったことがわかります。阿闍梨円慶についての詳細は明らかではありませんが、河越氏に縁のある人物と考えてよさそうです。また、鋳師の丹治久友は、当時鎌倉を中心に関東で活躍した河内鋳物師の一人で、鎌倉の大仏の鋳造に従事した当代一流の鋳物師でした。

銅鐘が奉納された新日吉山王宮は、現在の上戸の日枝神社で、河越荘の立荘に伴って本所である同社を当地に勧請したものと考えられます。

なお、この銅鐘が養寿院に移された経緯については、今のところ明らかでありません。

Information

平成14年度の行事として予定しています。

講座・教室 etc.

行　事	日　程	行　事	日　程
宗祇没後五百年記念写真展	7/31まで	野外博物館教室 「地域の文化財めぐり（大東地区）」	10/13
宗祇没後五百年記念講演会 「『河越千句』と連歌師宗祇」	7/28	考現学入門 ー探して集めて考えてー	10/24
ミュージアムシアター	7/30、31、 8/10、11	博物館歴史講座 「近代化への歩み　川越と本庄」	11/1、8、15
夏休み子ども体験	8/1、2、6、9	民俗芸能実演 「川越祭りばやし（今福囃子連）」	11/3
昔の遊び	8/3、4	（中級者向け） 古文書講座	11/10、16、24、30
子ども博物館教室（前期） 「土器を作って大昔の暮らしに挑戦」	8/7、8、 10/5	川越の伝説を訪ねて	11/17
子ども博物館教室（中期） 「文化財マップを作ろう」	8/30、 9/7、8、16	博物館歴史講座 「歴史の道探訪　鎌倉への道」（嵐山町）	11/28、29
歴史講演会	8/25、31	わたしたちの川越を描く美術展	11/30～1/13
土器作り講座	9/4、10、11、 10/5	同好会作品の展示など 博物館文化祭	12/1
博物館歴史講座 「歴史の道探訪ー舟運」（新河岸川と荒川）	9/5、12、18	ミュージアムコンサート 「魅惑のフォルクローレ」	12/1
野外博物館教室 「地域の文化財めぐり（山田地区）」	9/29	子ども博物館教室（後期） 「織り機を作って大昔の暮らしに挑戦」	12/7、8、15

＊変更の可能性もあります。
申し込み方法も含め、詳細については、「広報川越」を御覧下さい。お問い合わせは、博物館まで。

土曜体験教室

今年度から、毎月、第2土曜日に加え、第4土曜日にも開催します。博物館に遊びに来てください。

- 場所　川越市立博物館
- 時間　日によって開催時間が異なりますので、事前に当館に御確認下さい。

平成14年	7/27　たてたてよこよこしましまもよう！	身近なもので作ろう川越の織物 (B)
	8/10　牛乳パックでカメラを作ろう (C)	8/24　木の船を作ろう (C)
	9/14　藍染めをしよう (C)《午前のみ》	9/28　藍染めをしよう (C)《午前のみ》
	10/12　切り紙・貝の根付けを楽しもう (A)	10/26　わら縄作りをしよう (A)
	11/9　火おこしに挑戦しよう (A)	11/23　影絵劇を楽しもう (B)
	12/14　どろめんこで遊ぼう (A)	

(A) ……
- 申し込みは不要です。当日、直接博物館へお越し下さい。
- 参加のための入館は無料です。

(B) ……
- 事前に、電話かファクスでの申し込みが必要です。（参加時間帯が分かれます）
- 参加のための入館料は無料です。　※詳細は当館にお問い合わせ下さい。

(C) ……
- 事前に、電話かファクスでの申し込みが必要です。（参加時間帯が分かれます）
- 参加のための入館料は無料ですが、材料費をいただきます。　※詳細は当館にお問い合わせ下さい。

第12回収蔵品展

暮らしの中のはかり　—ます・ものさし・はかり—

平成14年７月20日(土)～９月８日(日)

特別展示室の展観

博物館では、川越市やその周辺地域の方から寄贈された資料を数多く収蔵しています。これらの資料を有効活用するため、毎年収蔵品展を開催して広く公開する機会を設けています。

今回は寄贈された資料のうち、人々が暮らしの中で使用した「はかり」を取り上げて展示します。

展示資料は、枡・物差・秤などを中心に、人々の生活とはかりの関わりや、はかりの変遷などについての資料も併せて展示する予定です。

第20回企画展「川越市のあゆみ80年（仮題）」

平成14年10月５日(土)～11月10日(日)

川越市は、大正11年（1922）県下最初の市制を施行し、本年で80年にあたります。この展示では、施行後80年のあゆみを関係資料等でたどります。

----- 利 用 の 御 案 内 -----

◆開館時間　午前９時から午後５時まで（ただし入館は４時30分まで）

◆休 館 日　月曜日（休日は除く）、毎月第４金曜日（休日は除く）、
休日の翌日（土・日曜日は除く）、年末年始（12／28～１／４）、
燻蒸期間（７月上旬頃予定）、特別整理期間（12月中旬予定）

◆入 館 料

区　分	博物館	川越城本丸御殿	川越市蔵造り資料館	3館共通券〈博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館〉
大　人	200円（160円）	100円（80円）	100円（80円）	300円
学生・生徒	100円（80円）	50円（40円）	50円（40円）	150円
児　童	50円（40円）	30円（20円）	30円（20円）	80円

●（　）内料金は、団体〔20名以上、１名につき〕の場合。

●開館時間・休館日は、３館とも同様。（燻蒸期間・特別整理期間は博物館のみ休館）

交 通 案 内

東武東上線・ＪＲ川越線　川越駅より
または西武新宿線　本川越駅より
東武バス　「札の辻」下車徒歩８分

発行日　平成14年７月25日　　発　行　川越市立博物館
〒350-0053　川越市郭町２丁目30番地１　☎ 049-222-5399
FAX 049-222-5396
Eメール hakubutsukan@city.kawagoe.saitama.jp
http://www6.ocn.ne.jp/~kawahaku/

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています